



花いっぱい自分友だち御一小

御前崎市立第一小学校 学校だより 5月号



ジケン毎日起きています

毎朝、遠くから歩いてくる大所帯の登校班があります。この日、その班は3つに分かれ、それぞれに6年生が付き添って、お疲れの様子で登校しました。聞けば、1年生が大事に抱えてきた虫かご内のトカゲが、登校中に逃げ出したらしいのです。

まず第1陣が到着し、上の理由がわかりました。その後、トカゲ2匹とともに第2陣。最後にしょんぼり顔の1年生と励ましながら歩いてきた3名の第3陣。これでようやくジケンの全容がわかりました。「校長先生、〇ちゃんを元気づけるために、トカゲの妖精ってことになってるから、話を合わせてください。」ほろり。当の1年生は無事に授業に参加できました。よかった。

起こるのは、こんなかわいい珍ジケンばかりではありません。600人の子どもたちがともに生活する空間では、未然防止に力を入れていてもやはりトラブルは起こります。

多くは、その日のうちに解決できるものですが、中にはご家庭にも協力をお願いするものもあります。また、ほんの一言で笑顔が生まれるなど、子ども自身のもつ「かかわりの力」が発揮されるできごとも多くありました。

日々起こるトラブルは、子どもたちがかかわりを学ぶチャンスでもあります。誰かが転んだら、その場に居る全員が真っ先に「だいじょうぶ？」と言える、優しさの花いっぱいの第一小をめざして取り組んでいきます。(残念ながら今はまだ、同じ場面で、つい笑ってしまう子もいるのです。) ご家庭でも引き続きボイスシャワーで、優しさの充電をお願いします。



うれしかったんですよ。自分はこんなに参加してもらえたのは初めてです。

先日の懇談会后、ある担任がこう話していました。参観・懇談会、PTA 総会へのご参加や、家庭訪問へのご協力などに、わたしたちは勇気づけられています。

子どもたちの幸せには、教職員の笑顔と元気は欠かすことができません。スマートにかっこよく、とはいかないこともありますが、どの職員も日々、子どもたちと向き合って奮闘しています。だからこそ、保護者のみなさんのご協力がしみじみ嬉しい4月でした。



(この連休に、ようやく大物を洗濯できて達成感を味わった校長 仁平美和子)

